

ハーブティ

～女と男をかんがえる～
ハーブティ:「ハーブ (herb)」は薬草のことで、茎や葉を生あるいは乾燥して使います。これが心と体にバランスのとれたよい刺激を与えることから、女と男も互いにバランスのとれたよい関係であるように、また一杯のお茶から地域のネットワークも広がれば…という願いがこめられています。

もしものとき、あなたは？

3月11日の未曾有の災害を経験して1年がたとうとしています。地震大国の日本、誰もがいつかは大きな地震が来るのではと案じながらも、備えに関しては消極的だったのではないのでしょうか。

しかし今回起きた大地震をきっかけに、改めて我が家の地震対策はどうなのだろうと問い直すご家庭も増えていると聞きます。

もちろん、日ごろから防災に対して高い関心を持ち、なおかつ実際に取り組んでいる家庭や地域もあります。そういった心がけは、災害時に大きな心の支えとなり、役立つことと思います。性別や年齢にかかわらず、誰もが災害時に行動できることがたいせつです。

そこで、まずは、自分や家族の命を守るため、平時での防災に対する考えをもう一度見つめ直し、家族でいっしょに自分たちの防災力をチェックしてみませんか？

あなたの家庭の防災に対する意識度はどのくらい？

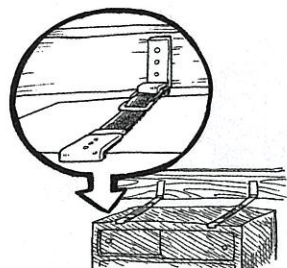
～家族で話し合っ、チェックしてみましょう～



【家族とのコミュニケーション】	チェック欄
● 家族同士の連絡方法を決めていますか。そのための話し合いの場を持っていますか。	<input type="checkbox"/>
● 避難場所を知っていますか。また、そこへの避難ルートをいくつか考えていますか。	<input type="checkbox"/>
● 「災害用伝言サービス」があることを知っていますか。また、録音・再生等の方法が分かりますか。	<input type="checkbox"/>

【非常用の品物】	チェック欄
● 非常用持ち出し品（非常食、ラジオ、懐中電灯、身に付ける最小限の衣類など）の保管場所を知っていますか。	<input type="checkbox"/>
● 非常用グッズの使い方を知っていますか。また、それらを試したことがありますか。 (例) パールやジャッキの使い方、手回し式ラジオの使い方、懐中電灯の電池の入れ方など	<input type="checkbox"/>
● 自分の身が危険であることを知らせるもの（笛など音の出るもの）を携帯していますか。	<input type="checkbox"/>

【生活に関連すること】	チェック欄
● プレーカー、ガスの元栓、水道の元栓の場所を知っていますか。	<input type="checkbox"/>
● 家具の転倒防止や窓ガラスの飛散防止などの地震対策をしていますか。	<input type="checkbox"/>
● 非常食（最低3日分）、乾電池などの保存状態について、定期的にチェックしていますか。常備薬、常用薬の管理をきちんとしていますか。	<input type="checkbox"/>



【日ごろからのご近所づきあい】	チェック欄
● 隣近所の人顔や名前がわかりますか。	<input type="checkbox"/>
● 日ごろからあいさつなどを心がけて、ご近所付つきあいをしていますか。	<input type="checkbox"/>
● いざという時、お互いに頼れるご近所はありますか。	<input type="checkbox"/>



【その他】	チェック欄
● ふだんから、防災に関する情報収集をしていますか。 (例) 地域の防災訓練に参加する、防災行政無線に耳を傾ける、「安心安全メール(注)」に登録するなど	<input type="checkbox"/>
● 医療行為を受けるときに自分の情報を提供できる方法を考えていますか。 (例) ID(身分証明)カードなどの血液型、既往症、名前、常用薬、アレルギー等を記載したもの	<input type="checkbox"/>
● 日ごろから、あなたの家庭で、ないと困るものをリストアップし、それらを用意していますか。 (例) 粉ミルク、紙おむつ、生理用品など	<input type="checkbox"/>
● 非常時に備えて、限られた調理器具や食材で、何か料理ができますか。	<input type="checkbox"/>

(注)「安心安全メール」とは…町の防災行政無線で放送した内容を、登録された電子メールのアドレスにお送りするサービスです。町外にいても、聞き逃しても、メールで送られるので安心です。詳細は、本紙の特集5ページをご覧ください。

おわりに

今回の東日本大震災を契機として、多くのかたが、改めて地震やその他の災害が起こる可能性を実感なさったと思います。防災をテーマに取り上げたのも、そういった背景があったからでした。

突然起こる震災には、なすすべもありません。でもわたしたちは家族間の防災への意識を高めておくこと、行政からの情報を活用すること、地域のコミュニケーションを取ること等の可能な範囲で備えをすることはできます。

そのためには、日ごろから、人としてお互いを支え合う気持ち、絆を深めておくことがたいせつです。「人と人とのつながり」が、恐怖や不安な心を救い、困難に立ち向かう気持ちを奮い立たせてくれ、さらには、減災へとつながると思います。そして、その中には女性が積極的にかかわっていくことで、女性の視点や女性の力が生かされる場もきっとあるはずですよ。

かけがえのない命、安全な生活を守るためにも、日ごろから家族で話し合うことにより絆を深め、わたしたち自身の防災力を高める努力を続けていくことがたいせつだと思えます。今回のテーマが少しでも皆さんのお役に立てたらと切に願います。



長い間、ありがとうございました。

◆貴重な体験や知識を得ることができた2期4年間でした。多くの初心者が集まってスタートしましたが、多くのかたのおかげで、なんとか続けてこられました。つたない記事を読んでもくださった皆さんにも感謝しています。(笠井朋子)

◆初めての編集会議の日を昨日のこのように思い出します。「何から始めたら？」という素朴な疑問からスタートしましたが、活動を通して、悩みながらも、ひとつの物を作り上げていくことの喜びを実感させていただいた貴重な4年間でした。今は、「ハーブティ」を皆さんの記憶の片隅にでも残していただけたら、たいへん幸せに思います。(小野寺晴美)

◆「ハーブティ」をいっしょに作りませんか？ ～第8代の公募編集委員募集中～

テーマは、委員の皆さんで決めています。「男女共同参画」というと難しいイメージがありますが、子育てや年金などの身近な課題から、いっしょに考えてみませんか。男性も大歓迎です！

◆「災害と男女共同参画」(パネル展)

3/6～3/16、庁舎1階市民ラウンジで開催します。ぜひ、ご覧ください！
問合せ 政策財政課 内線 366